

## 14.毎日居場所を提供するコミュニティ食堂 コミュニティ食堂 マルチャンゴ

益田隼汰

### 1.始めたきっかけと母体

丸山さんがマルチャンゴを始めたきっかけとしては、娘さんの友人が晩御飯を一人で食べていると聞いたこと、テレビで子ども食堂のニュースを見てこれをやりたいと思ったことがきっかけ。

### 2.開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

#### ○開催日時

「コミュニティ・カフェ」

月曜日～金曜日 6:00～16:00

日曜日 7:00～16:00

「コミュニティ食堂」

月曜日～金曜日 18:00～21:00

料 金：200円（対象外の大人は500円）、お手伝いした子は無料

対象者：高校生以下の子ども、20歳前後の一人暮らしの方、75歳以上の一人暮らしの方

代 表：丸山 圭子さん

〈平日に毎日食堂を開く理由〉

・お昼にカフェを開いており、コミュニティ食堂を平日毎日できるだけ環境（場所）があったから。

・子ども達に丸山さんがどのような思いでマルチャンゴを開いているのかを伝えるためには、できるだけ子ども達と関わる時間が必要だと思ったから。

#### ○参加日時

4月27日（木） 9月26日（火）

5月23日（火） 10月24日（火）

6月20日（火） 11月28日（火）

7月25日（火） 12月26日（火）

○食事メニュー

- ・4月27日 旬ご飯、焼き肉、サラダ、コーンスープ
- ・5月23日 ご飯、焼き肉、サラダ、味噌汁
- ・6月20日 ご飯、マグロの中落ち、サラダ、味噌汁
- ・7月25日 ご飯、エビチリ風卵とじ、ナスの素揚げ、サラダ、味噌汁、豆腐
- ・9月26日 ご飯、味噌汁、サラダ、かぼちゃとニンニクの芽とパプリカの肉まき、かぼちゃの煮物
- ・10月24日 ふんわりから揚げ定食
- ・11月28日 カレーライス、サツマイモの素揚げ、豆の甘煮

○食事以外のプログラム

マルチャンゴーには、食事以外のプログラムというのは特に決まっておらず、1人1人が自分の時間を過ごしている。例えば、子ども達はトランプや将棋などをして楽しんでいたり丸山さんのお手伝いをしている子もいる。高齢者の方達はご近所さんとおしゃべりをして過ごしている。

3.参加者

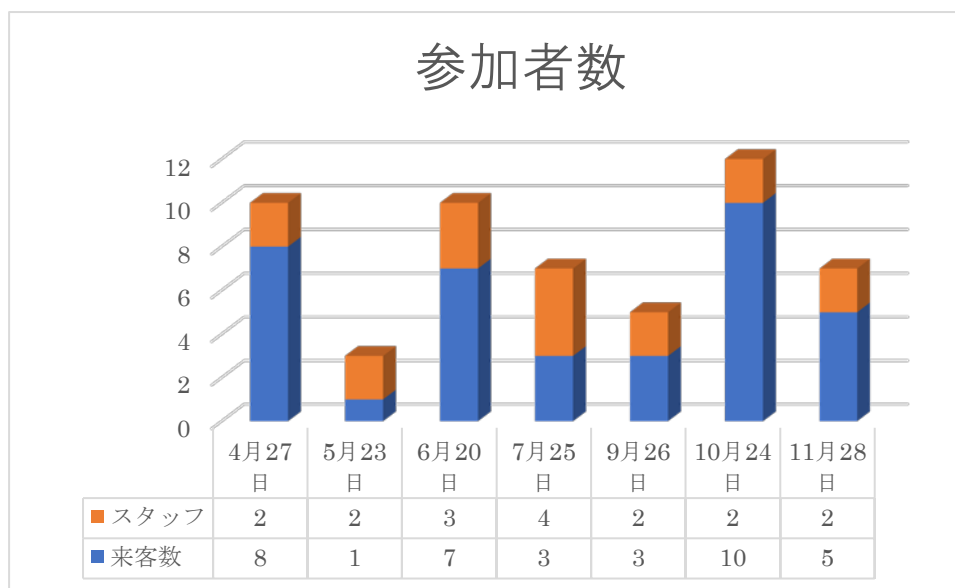


図 1 参加者数

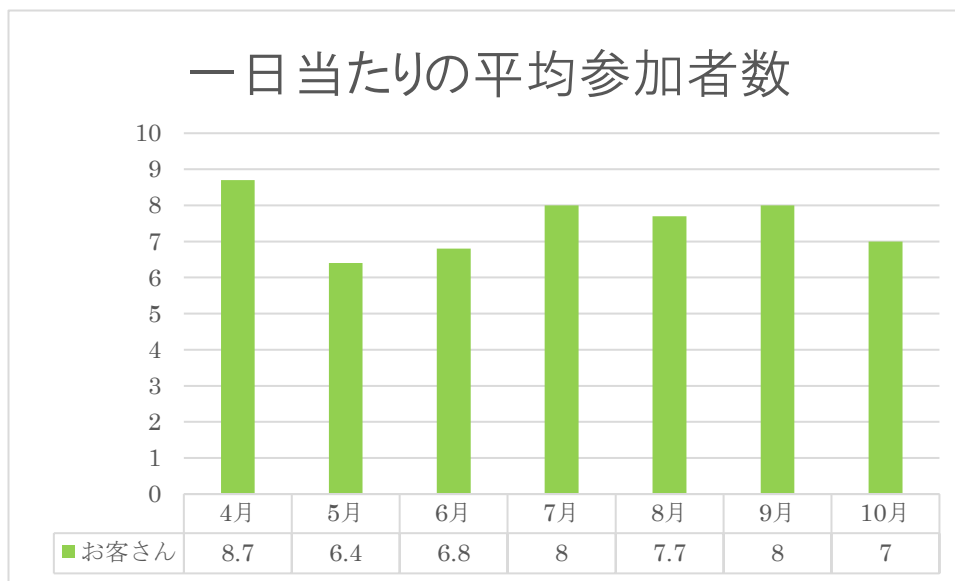


図 2 一日当たりの平均参加者数

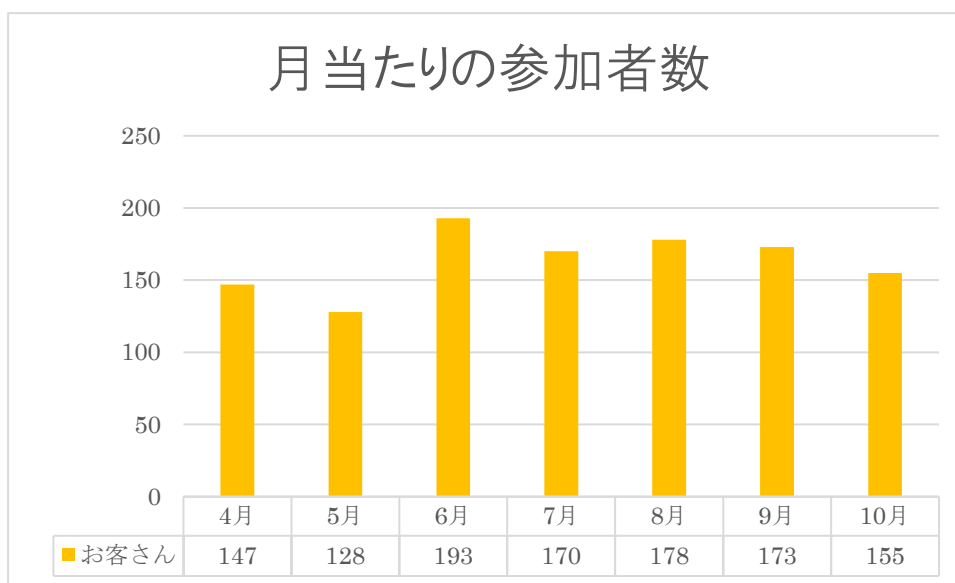


図 3 月当たりの参加者数

#### 4.参加者の主な居住地、学区

参加者は常連さんがほとんどで小学生（白水小学校）・中学生（名南中学校）・高齢者の方が多い。高齢者の方はご近所さんが多いがバスを使ってきている方もいる。また、多くはないが遠くから子連れで来る方もいる。また、週1くらいのペースで初めて来るお客さんがいる。

## 5.子ども食堂が抱えている課題

課題とは言わないが、目標として...

- ①もっと色々な人来てもらおうこと（子ども、高齢者だけでなく障害を持っている方も）。
- ②来て下さるお客さんにとって家のような場所を提供し、その中で色々な人の姿をみて様々なことを学んでいってほしい。

〈2017年を通して〉

平日毎日開いていることにより、だんだんと学校での出来事（友人関係など）がマルチャンゴーにも反映されるようになってきた。

## 6.課題を解決するために行っている取り組み

- ①平日の13:30から手話の指文字を毎日練習している。
- ②食事を提供する際、その日のメニューは一応あるが要望があればその日にある食材でできるものを提供するなど自由度を重視している。

## 7.関係者マップ

- ・くらしを耕す会：お米の寄付
- ・ほんわか食堂：市場からの寄付を分けてもらっている（主に野菜が多い）
- ・社協：市や区からの助成金
- ・個人：畑をやっている方やマルチャンゴーの活動に共感してくれている方の寄付（野菜や図書カードなど）※寄付してくれる方は毎回違い複数人いる

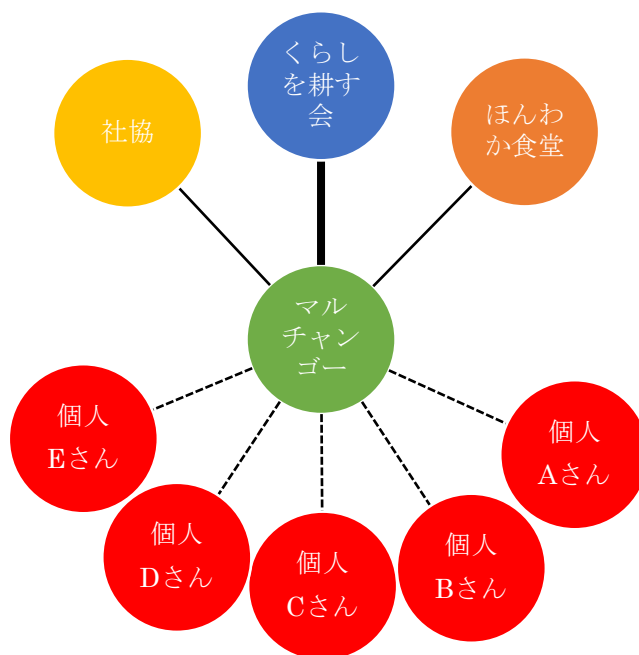


図 4 関係者マップ

## 8. マルチャンゴーに通り感じたこと

私がマルチャンゴーに通り感じたことは、子どもにとって良い居場所になっているということだ。そのように感じた理由としては、マルチャンゴーに来る子どもは、ただ食事するだけでなく、洗い物、食材を切るなどのお手伝いをしたり、トランプや将棋で遊んだりととても楽しそうに過ごしていたことや、マルチャンゴーに来ることで、丸山さんや高齢者のお客さんなどの親以外の大人と会話をする機会ができるということは、子どもにとって良い刺激になり、吸収できるものがあるのではないかと感じたことだ。

また、共働き家庭や片親家庭の場合、家で子どもが1人で過ごす時間が出てくるかもしれないが、マルチャンゴーのような場所が近所に1つでもあれば、子どもが1人でご飯を食べるなど孤独を感じるということを減らすことができ、親にとっても子どもの食事の準備などの負担を少しでも軽減することができるのではないかと感じ、子ども食堂が増えることでのメリットというものが少し見えたように感じた。